

昭和15年12月1日（日）

興亜奉公日。今朝五時、水をバケツに表に出し、ミワさんもんぺにて待機す。何かの行違いらし、男子は国防服にて靴屋前に集合す。午前中甚だ寒し、火鉢にて炬燵す。午後0時10分、裏の理髪屋にて髪つむ30。夫れより洋服に着換え、金谷南の丁に村上局長を訪ひ、栄転を祝す。長男召集二年間、昨夜帰還せし由にて余の前に紹介さる。祝福申し上げ帰宅、出局。三時半夕食ウドン。六時より丸房落75求め、巖の許に見舞いに行く。久子出て来たらず。今朝久子和博と来たり、明日帰ると云ふ。帰りたくてしかたがないらし。巖宅より帰りに南京豆買ふ。一合五銭と称す、三合求めらる。蛭子橋際、井の口方にて、八つ足注文せんとし立寄りたるも不幸あり、混雑して居る様子にて、後日を期することとし帰る。天気快晴、後多少曇り。寒からず、行火を使用せず。九時過ぎ就床。但し十時まで新聞見る。喉咽部障碍、咳出づ。

昭和15年12月2日（月）

朝来仕度して待機す。十時少し前出発。駅前には受付係、庶務木下主事、中野主任、衛に当たり入場券を交付す。新聞記者、警察官など眼を引く。十時十分急行、二等で発車。細君にも御目にかかる。五六十名の見送りあり。局に帰り着物を着直して仕事初む。午後二時過ぎ、逓信局酒本源太郎氏臨局。為替貯金事務を見て三時半、森に向かつて辞去さる。豊後町局を視て来られたる由。日田に行かるる筈を、此の機会に森を経て行かるるを可とすべしと慫慂す。白玉粉二袋（25のもの）にて団子を作ったり。之を局の三名にも配る。恰度涅（ね）り上げて居たる際、守谷さん花嫁姿にて挨拶に来らる。角野さん

の奥さん介添えとして来らる。手を粉だらけにして挨拶に出づ。九時過ぎまで仕事を続ける。尚貳円、守谷氏に祝儀す。久子多分本日帰福せしと覚ゆ。ミワさん折角林檎類を土産に遣るべく、梱包して待たれしも、行われずして終わりぬ。

昭和15年12月3日（火）

快晴。午前九時過ぎ、田尻の橋内カツエ氏、甘藷一籠持参。利札支払方、申出でらる。本局にやる。久子午前十一時来る。愈々帰ると云ふ。銀杏一合程置き、真綿一枚呉る。金は三円あり、路用に不足と云ふ。ミワさん林檎の外に金子二円恵まる。三十分間程余裕あり、駅にて本を見て居るとて辞去す。如水村藤永先生の給仕来たり割引券を需む。未だ券来たらず、数回福日に電話す。話中とあり。郵、電消耗品来たり。調査に多忙の際、一燭園中川氏来局。五百枚措いて行かる。竹内旅館に泊まり居ると云ふ。四日市長洲方面、好都合に出来たとあり。ミワ氏各方面に配布。余、如水村小学校藤永氏宛に発送す。報告用紙到着に付き、作製発送す。朝、馬鈴薯皮剥きす。日中火気なし、夜火鉢とる。昨日より中食時、為替窓口閉鎖す。頃日新聞見る暇なし。

昭和15年12月4日（水）

午前九時、中津局切手資金払込み。十時頃野口さんに電話、信子病氣異変ありと。直ちに出発、至れば既に緯（こと）切れ居たり。清松医師あり。余は多少遅れて至る。離れ座敷に置きあり。初め智子と思い遣ひし。平素丈夫なりしが昨夜罹病（りびょう）、今朝死去。急性腸加答児（カタル）とあり、疫痢と認む。清松博士、悦子和

博を診て還る。余二時間居り、正午を過ぐる頃帰局。猶巖、山国橋にて保険集金に遇ひ、取込み居る模様を聞き急ぎ帰宅。夫れに依りて余帰る。(すわらじ割引券、如水小学校藤永氏宛て発送。其の以前、給仕受取りに来る。生憎届き居らず。福日に電話せしも話中、埒明かず。そうこうする中、中川氏来られ券問題解決)。此の日生憎野口氏四十五円不足、鶴居村真田米吉氏よりの通常為替分と判明。五時二十分出発、同氏を訪ぬ。不在、妻女心当たり搜索せしめ、同氏来たり四十五円呉る。持帰れば森田さん伊勢さんも鳩首、同情の際とて大いに喜び呉る。余入場券三枚を交付、観劇せしむ。途中ミワさん巖方より帰るに会し、乃ち一緒に入場す。余居残り片付けて、七時過ぎより巖方に至る。数名悔やみに来て居る。隣組には通知を要する由にて、夫れ等の人々皆来て下さる。余隣り不知に営む方針に対し、説明を試む。木内中野の諸氏、森山組長等見ゆ。九時皆帰りて貰ふ。余電報総計表作成資料、持行き調査す。午前一時四十分、引揚ぐ。帰宅二時十分。二時半寢床。容易に温まらず。晴天、日向は暖かなり。

昭和15年12月5日（木）

快晴国葬当日。此朝五時、野口さんミワさんと巖方を訪ふて焼香。野口さん九時帰局。朝飯遅れて十時近くになる。中川氏礼に来らる。青券十余枚に過ぎずして、他は殆ど無料券（出征軍人家族）のみなりしとあり。今日は四日市と。今朝、橋内氏より頂きし甘藷茹でる。夕食時頂く。二時半巖来局。鐘香爐等、持行く。十時、ミワ氏小便持行かる。島原先生一週間程、福岡に花柳病講習に行くと。土曜日来診の由。午後電報原書整理するに料

金不適合、幾ら計算しても都度悉く相違す。措きて巖方に赴く。香奠拾円遣る。森田西牟田両氏名義、各一円づつ。合同の野口氏同断。余の分五円を適当と認めしも、遂に拾円に決す。途中まで朝吹氏迎えに来らる、一緒に行く。七八名来て居らる。余洋服着、下駄穿にて行く。衆皆、余の至るを待ち侘びつ。即ち巖の為に書いて呉れた位牌、松堂信女の前に合掌礼拝、読経す。斯くて焼香を済ませて一同を還らせ、愈々焼き場に痕いて行く。巖、余、ミワさん、朝吹さんの四名。朝鮮人の隠亡（おんぼう）棺桶を挽きて、焼き場に於いて白骨の譜を高らかに誦唱、心経を捧げて火を点す。帰りは巖方に寄らず戻る。九時就寝。猶、焼香に来て呉れられた人々に対し、葉書参枚づつ配る。

昭和15年12月6日（金）

晴れたり曇ったりの天気、されど近日余り寒からず。火気を近づけなくも凌げる程度なり。飯塚局が一等局となりしとて、局長従事員一同の名を以て、先代局長として感謝の書面到来。之に対し返事左の如く認む。

「拝復。今般御局が一等局に昇格し、爰（ここ）に輝かしき記録の一頁を飾ることとお成りし上、同時に仕事の上にて一大飛躍が約束さるることとなりましたことは、寔（まこと）に慶祝欣快の契りに堪えません。謹（つつし）んで御祝詞申し上げます。然るに、嘗て御局に些かの縁（えにし）を汚したと云ふ処から、???僅かに其の??見けりしのみにて、何等貢献なき身には、今回賜はりし過分の御褒詞に対し、冷や汗背を霑（うるお）し、只爰に??の外ありません。藤本局長殿を初め、局員各位の御健康を禱（いの）り御発展を慶賀して御挨拶と致します。合掌。」

此日十一時頃、小寺萬寿士中津局長、挨拶廻りに臨局。木下主事、随員扈從（こしょう）す。夜十時近く寢床。其の前に、電気炬燵入れ置く。

昭和15年12月7日（土）

黎明降雨、僅かに地面を潤す。六時甘藷洗ひ、ミワさん神様より帰りて御飯を蒸し、甘藷を茹でる。九時切手請求。金子中津局に納める序でに、洋服に着替ひて二階に上がる。折り悪く、木下主事を連れ局長外出中、名刺を依頼して帰局。午後より切手請取りに、再び洋服して行く。今朝髯剃る。敬意を払ふ為、外出するに髯蓬々の躰にては失礼と認めたるに由る。恰度中食中、覗けば扉を開け呉る。乃ち入りて敬意を表す。三十分間ばかり話す。四日着任の夜、泥棒に這入れ有り金全部盗まると。此の日天気恢復。頗る温暖にて、夜に入りても火気を欲せざるまでなり。飯塚へ昨夜中、返事投函。

昭和15年12月8日（日）

朝便所掃除。硝子掃除を省略したる為、余り手間をとらざりし。神様より帰りしミワさん、眸脹したる膨べたを押し付けなどす。相当局部に熱を持つ。後刻、角野医に診て貰ふ30。切開膿を採る。明日は全治すべしと謂わると。藷を洗い新聞を見て、夕方近く事務室に入り、債券到着したる数量を検査す。貯十円50，五円30。愛国五円200，拾円200。朝来朔風猛、気温低下。夜早く電気炬燵す。七時ミワさんと外出。襖屋に到り屏風を見る。35円と称す蒲団は本町にて値段を聞く。サラサにて四十円と云ふ。炬燵櫓3，52にて求む。帰りに宮島町の角の家具店より、八つ橋八円にて注文す。二十日迄出来ずと約す。

此の日無烟炭十二箱持参す。九時寢床。

昭和15年12月9日（月）

冷氣強し、快晴。諸町振替加入者なしと通知に依り、藤野染物店を訪ふ。番號相違に付き、大阪振替に通知す。午後より鐘紡正門前、有川タズを訪ふて、給與金受給資格調査表の提出洩れにて、支給停止通告を告げ、之が提出方指示す。ミワさん債券を抱へて各方面に活動す。夕方近く伊勢さん母堂、餡餅、深山及び白米等持参。朝、馬鈴薯洗ひ皮剥ぎす。夜かなり冷ゆ。ミワさん火を火鉢に移して下さる。余早く終了し、ミワさん火鉢に暖をとりつつ切手請求調書作成す。九時床に入り新聞を見る。同四十分寢床。此日切手類不足せし為、請求函場に借用分幾つか出す。

昭和15年12月10日（火）

快晴と見しも、午前中日光を見ず。午後より幾分暖かになる。無烟炭焚きしも二時頃より初めたる為、完全に焚けずして消えたるらし。午後四時半頃より巖方に行く。七日目修證義を捧ぐ。ミワさん野口さん行く。ミワさん仏前に供物、七十余錢果物を求め行かる。朝吹氏坊主を頼み夜、回向する由。余、全時間を一時間二十分位。五時三十五分帰着。ミワさん甘藷、途中より求め来らる。一貫目参拾錢。橋内氏より貰ひたる分は今日洗ひ、全部処分済みとなる。夜七時三十分、鷹雄さん真綿製品持参。チョッキ6円50と云ふ。余贅澤（ぜいたく）と認め極力阻止せしも、遂に辞する能わざるか求めらる。債券など買って貰ふ為、無下に断り難しとに至れるものと信ず。森田さん野口さん、六時過ぎ外出。活動写真と思はる。

夜、火を用いざるも暖かなり。午後二時頃、弘山襖屋屏風持参。35円渡す。母堂の寢室に配す。母堂見て歓爾たり、起きて眺むる多時。昨は炬燵が届き、今日は屏風が届く。此の夜は亦た、余の為にチョッキを求めらるる光榮に俗す。

昭和15年12月11日（水）

寒さ烈しからねど、火気を須える要あり。朝木炭を投じ無烟炭を入れしも結果悪し。後刻、余火を起こし調節す。二回継ぐ。夜に及ぶも火力衰えず。ミワさん外出。国債も到着。午後二時馬鈴薯洗ひ皮剥ぎす。硝子屋来たり、全部入れ換えす。三円余支払ふ。夕飯遅れ六時半となる。昨余の机を移転、金庫の右側とす。小包の到着なきを以てなり。道（さすが）に今日は寒し。

昭和15年12月12日（木）

曇り、偶々陽の射すこともあり。甚だ寒し。ストーブを焚く。朝七時みどりやより出火、ボヤにて消し止む。平原氏挨拶に見ゆと。十時より出局。国債売り行かる。五十円券売り約つく、外に十円券売約つく。今日甚だ寒し。陽照ること罕（まれ）なり。年末賞与及び現金手当来たる。分配す。野口4円（夏季同様）、森田23、伊勢7、中尾32。外現金手当、野口6、中尾1、9。公報、山口吉敷梶山澤太郎、依願免本官。住七、勲八上山信次、襲職三級手当。加藤三郎、三級仙台大町局長、十二月七日附け。今日諸を作らず。夕食雑炊頂く。六時を過ぐ。伊勢さん帰るを待たせ手当発表。煉炭たくことやめ、其の代わり事務室にて湯を沸かす。十時寢床。ミワさん切手請求の為に居残り。十一時半頃までかかる。

昭和15年12月13日（金）

快晴。此の朝、藷を作らす。煉炭を焼き大角豆（ささぎ）を煮、午後二時より甘藷を洗ふて蒸す。朝よりミワさん外出。余、朝切手請求金払込みに行く。九時函場より印紙百円買受けあり。序でに此の分をも請求中に入れ買受く。午後0時10分中津局に行き、五円計算不符合。五銭切手百枚追加さる。証券保管請求多く常務出来ず。此の間、大角豆を煮るため数回立つ。夜六時過ぎ夕食。野口さん計算不符合、後刻判明せる由。十時近くまで事務室に、ミワさんの相手になり居る。早く寝る。

昭和15年12月14日（土）

割合暖かなり、ストーブ焚かず。珍しく煉炭も取らず。今朝も雑炊、甘藷もありて結構に頂く。ミワさん午後より外出。角野さんに年金勧奨す。分割にて契約さるとのこと。石橋先生に敬意を払ふべく電話す。三時後は閑なりとのこと、四時過ぎ夕食を済まし和服に着換えて、巖宛て書留を携え五時出掛け、至れば先生夕食前とのこと、余を俟つものの如し。仍って夕食後三四十分間用達して来ると、小使いに話して巖方に行く。即ち書留を渡して帰り、再び相談所に至る。食事を終えられたる由に付き二階に上がる。色々話し、余の身の上咄しもある。猶、母堂の熱発に就いても質す。高血圧より来たりしものと見ゆとあり。百五十位が順調と謂はる。先生は月曜より飯塚に行き年内居らるる由。追って福岡相談所に出るようになるらしいと咄さる。一時間程にて辞去す。今朝髯剃る。柿、朝及び夜、剥き全部提供。余は朝夜共林檎頂く。頃日寝る時間遅きものから頗る睡し。伊勢さん早く帰る。

昭和15年12月15日（日）

午前9時ミワさんより拾円、外に汽車賃貰ひ出発。羅漢寺往復72銭支払ふ。十時着十時四十分より開会。中津耶馬溪倶楽部に来たりたる者あり。深秣局長其の一人なり。此等は十一時の汽車にて来る。豊後町も其の一人なり。此日研究会費六円、外に義捐金等1,20支払ふ。及び今日の御馳走、祝儀一円も、、中津にては午後五時以後にあらざれば酒出さぬので、耶馬溪に変更の余儀なきに至れる由なり。今日の招待者は澤民及び槻木の両局長とす。酒は茶碗にて大盛り数杯を傾け、遂に大いに酔ふ。饅頭及び餅を購ひ帰る。会議の席上、相談所余剰金の処分方に付き、栄町局長より持出し、旧会員に拾円づつ、新会員に二円づつ分配することにけりが着く。此の夜帰りて甘藷や饅頭や飯まで鱈腹食べ、六時頃より横臥し、十時半ミワさん神詣でより帰りて本式に寢床に入る。胃を害し居る如し。夜半にミワさんに水を貰ふ。多少熱発し36,8あり。晴天。

昭和15年12月16日（月）

割合に暖かなり。嘔吐することに依り停滞物を吐き出す。朝食も例の如く頂かる。此の日、昨日招待されし両局長より土産品（茶道具入）配布を受く。夜とろろ汁。井の口指物屋、夕方来たり。箆笥の袖手破壊の修繕を了して去れり。今日ストーブ造る。二回炭つぐ。八時頃、猶火焰揚る。

十二月一日、正午より六時まで飯塚局階上会議室にて、珠算競技会開催。選手は飯塚32、後藤寺10、直方5、市内無集配13、計61。

一等二部読上外電 一部 魚成安哉子 一等（後藤寺）
堤キクノ 二等
二部伝票一等（後藤寺）三等外野実 井上文夫（飯塚）
一部 一等松永マサ子 二等（後藤寺）
二部見取 二等 井上文夫
一部 一等松永マサ子 二等（後藤寺） 三等鯰田。
後藤寺に祝詞を葉書で送る。

昭和15年12月17日（火）

午前四時降雨らし。雫の落ちる音にそれと覚えぬ。気温暖か。九時過ぎ切手請求に行く。ストーブに火を移す。風漸く強し。甚十郎氏突然来らる。昼飯は自分独りで出掛け、裏の飲食店にて鰻どん70を食べらると。夕食にチリ、色々手伝ふて時間に間に合うようさる。四時より晚餐、四時半出発。一緒に食べかけつつ、余は氏の出立の際も猶食べつつあり。今夜、下関急行大阪に立寄り、明日上京。本年末再び来らるる由。来春は五日頃まで滞留すと。五時よりミワさんと巖方に行く。二、七日（ふたなのか）。林檎、甚十郎の土産中、幾つかを持参す。甚十郎氏よりも香奠二円寄贈さる。和博、智子、悦子皆元気らし。悦子は今日あたりより、漸く普通食を摂ることとなると云ふ。帰りに甘藷三貫目、34にて求めたり。何れの店にても品切れとあり。中には4銭にて、公定相場を無視して売捌くものありと。既に30銭を34銭にて販売するさえ違法なるに、40銭は余りに甚だし。野口さん拾円不符合。重松某集配局員が、独り事務室に入り来たることに疑いを挟みつ。本日余等の留守に入り来れる由にて、生憎野口さんも現金を始末せぬ俣、炊事し、森田さんのみ入室の際、恠（あや）しむべき態度ありしとて、余等の帰り

を俟ち、債券の枚数を尋ねらる。然るに此の方は無事なりしも、拾円不足とありては重松某を疑わざるを得ぬこととなり、此の夜ミワさんと相談して、切手代金の預入中より即時払いして支出することとせり。九時過ぎ寢床。

昭和15年12月18日（水）

曇り。昨より風強く、寒気漸く強し。此日も時々小雨降り、陽の射すこともありしが、概して曇天を継続しあり。朝、切手請求。午後現品受取りに行く。午後は雨に逢うも帰りは霽れ。三時過ぎ母堂の小便持って行かる。腎臓は殆ど快癒せし由。野口氏、復々四十円不足と云ふ。此の日は例の集配員も休暇か一向見えず。誰も事務室に入り来れる者なし。甚だ不思議なり。守谷さん二度目の家に嫁し子供がある由。今日里入り、序でに立ち寄られ土産持参すると。余面会せず。然し相当資産家らしく慶度限りなり。野口さん長大息を漏らし、余に対しても代わって貰ひたいと云ふ。代わる人があれば問題はないが、今の処、自分以外に其の人もなし。余と雖も不完全なりと云ふも、夫の態度は別として、かかる際、代わって呉れる人あれば確かに助かるとは思ひぬ。夜寒し。十一時まで安眠し得ず。

昭和15年12月19日（木）

朝少雨。表掃除省略し得。今日は切手請求なし。寒気緩む。朝甘藷洗ふ。久子より葉書、澄子の書体らし。餅来、大橋辺まで買い出しに行きしも農家にもなし。姉さん来て餅を嗜み夫れを喜ぶと云ふに、一人一升の割に分配を受くるに於いては、如何ともせん方なし。中津にて出来ねば三ツ谷より搗いて貰ひたしとあり。晴れたり曇っ

たり。野口氏に半金貳拾円補填に遣る。歎息歎まず。ミワさん風呂行き、余事務室にあり。野口さん来たりて、為替を覚えさせる様、余に忠言を呈す。余首肯す。肚裏既に其の積もりにて居る際とて、謂ふ処当然と思ひぬ。然るに百円も弁償しては帰るより途なしと云ふに至って、余百円とは何か、何日百円欠損せしやと畳かけて尋ぬ。曰く、自分の懐ろより出せしに非ずと弁解し、猶将来、此の種の事故を繰返すに於いては、誰が百円の弁償を否定するものあらんやと云ふ。爰に於いて、余詭弁を詰り、昨日余に逼（せま）り代わって欲しいと謂ったことは、全く余を困らしめる目的と見えたりと責め寄る。折り柄、風呂より森田さん来る。乃ち二階に辣し、就中誰か将来百円の欠損なきを保証する者ありしの一言、聞き棄てになり難し。自らを欠損の不注意に起因するを顧みず、敢えて人を責むるの道具に逢ふこと、言論道断なり。曰く私は「そんな人間ですか」と出過ぎた言葉に警告を与ひて、下に降り森田さんより参拾円余借用。蜜柑を買って貰ひ、三人鼎座して食べる。ミワさん森田さん呼びに行き、四人となり頂き、十時近く寢床。

昭和15年12月20日（金）

晴れ、朝の間は冷え込む。昨、十一時を過ぎ寢に就く。九時半ミワさん、債券当籤者数名通知来たり。一々其の家を訪ひ、債券を購はしむ。其の間に数名来たり。貯金に繰り込む際、新規に求めしむ。此の朝巖来たり。母堂を見舞ひ、大を起こして持行く。梨子少々持参故、信子の保険を請求す。印紙請求百円及び拾円等、後者は皆無となれり。仍って庶務に電話し直に払込みに行きたり。八つ橋届く。午後一時来るよう依頼す。午後一時再び来

る。漸く俟たせ置く内、ミワさん販宅。八つ橋は巖運び呉る。八円支払ふ。此日証券保管九回、大は一千円、小は五円。午後の印紙請求ミワさん行く。糯米一家五合より売れぬと配給より申し渡さる。午後九時退局。少時新聞を閲し四十分寢床。夕方甘藷蒸す。

昭和15年12月21日（土）

快晴。雑炊。切手請求。其の後資金請求に二度行き、切手受取りに三時過ぎ行く。戸外の日向に面する方は、暖かなり。余の中津局に資金請求に行き居る間に正午となり、窓口閉鎖す。女性の人、自分は時間前より来たり居ると称し、相手にされぬので、現金掛に訴ふ。中春主任、窓口に出て取扱わしむ。此の態度甚だ気持よかりし。峯昌成氏より小包到達、礼状発送す。澄子にも当分行けぬこと、自肅自戒を要すべき時期に統制を案（みだ）してまで口腹の欲を充たさんことは、非国民の譏りを免れず。姉さんの為配意することは多とすべきも、自覚した者なれば、自分の為に統制を案して調達する心持ちこそ感謝に値すべけれ。それだからとて、強いて人に迷惑をかけてもと迄は思ふまじと、たしなめてやる。五時島原先生来診。熱と脉搏の検査表の記入方廃止さる。夜、薪求めに裏の種子物屋に行き、二束持来る。20づつ、ミワさんは一束。

昭和15年12月22日（日）

冬至。午前中事務室に炬燵し新聞見る。午後一時より母堂神詣でを心かけられ、自ら仕度して待ちたる。今日は恰度祭典。而して病床に就きて五十日目。ミワさん野口さん行かる。此の間に座敷を掃除す。電話書類の差立て

準備、スリッパを修繕、ハタキを遣る。夕方母堂帰る。余り遅いので心配して居る。下駄の緒を据え、八時近くミワさんと外出。蒲鉾屋に十円余注文す。上50銭、以下30銭。此の時降雨、ぽつりぽつり。蒲団、母堂の貯金中より一枚求めよとの命にて捜す。組み物上二、下一なれば売り呉るも、上一つの注文には応じ難しと云ふ。木綿物五十六七円と云ふ。帰るさ合馬さんの駢（なら）びの饅頭屋にて、一個7銭にて70を注文し帰る。林檎、前日皮を剥きありしを途中頂く。九時頃より寝に就く。母堂割合に元気なり。明日赤飯炊き、局員に馳走することにプランをして準備せしむ。

昭和15年12月23日（月）

此の朝野口さん方に発表。伊勢さん西牟田さんにも通告す。御飯は麦を混入せざるもの、小豆は二合あり。三時よりミワさん飯炊き。此の朝少雨、非常に暖かなり。ストーブに火を取りしも、消えたる俣飾りあるのみ。五時過ぎ、余、母堂ミワさんと伊勢さん、夕食の赤飯を頂く。余済みて西牟田さん来たり、次いで森田さん見え、野口さん殿（しんがり）に来らる。米一升八合、小豆二合にて七人満腹食べるとしても、一升五合あれば充分なりと注意せしも、遂にお鉢に三分の二以上を残す。夜六時半、ミワさん母堂を風呂に連れらる。座敷を換え母堂は床上げさる。今日は炊事の加勢も遊はさると。掛け蒲団二十五円にて一枚ありしと云ふも、余は此の際其の必要なしと認め中止せしむ。

昭和15年12月24日（火）

朝来降雨。昨夜より母堂自分の部屋に引き取らる。今朝

新しきハタキにて念入りに塵を払ふ。相談所へ床上げせし旨、電話せしむ。多分「母が床上げしました。長らく御世話になりました。先生に宜敷く」と挨拶せしと想像す。相手の看護婦は「夫れは御気の毒でした云々」、話の辻褄が合わぬと思ひたりと云ふ。何ぞ知らん、相談所は余が急逝を報じ、看護婦を遣わし見舞わしむ。林の伯母さん今朝程、饅頭箱を持込みを見て母堂は死去と即断し、両々相俟って、愈々五里霧中に彷徨せしむ。誠に千載の笑い草なり。朝、母堂一緒に朝餉を摂らる。切手請求。降雨和傘持参。午後は雨上がり、巖来たり。拾円報国債五枚買ふ。四十七日返礼小包持ち来る。大連及び東京へは何れ近日到着する故、態々郵便に託するに及ばずと預かり置く。ミワさん饅頭配りて竹屋及び巖方に行かる。五時半より野口さんと巖方に至りて経を上ぐ。本日の坊さん来たり、阿弥陀経を上げ白骨文章を上ぐ。坊さんを送り出して後、余等飯る。八時となる。雨降る、傘借りて帰る。蒲鉾持参しあり。饅頭は二階の連中に、二つ宛て分配す。十時を過ぎ寢床。

昭和15年12月25日（水）

道路泥濘、掃除せず。座敷綺麗に掃除す。朝食母堂より早く済ます。ミワさん九時より伊勢さん方に。余は九時十五分、饅頭七つを九つに追加、果実籠に容れて、汽車賃を野口さんに借り、先方にて髯剃りする積もりにて60銭借り、一円紙幣出さる。小銭に変更して貰ふに時間を取り、遂に一分遅れにて汽車に乗り後れ、引き返したり。広畑氏切手請求。便宜交付せしむ。髯剃りして十時十分、和傘持参にて出発。豊後町を上がる、中殿町を上がればよかりし。十一時二十五分着。カツエ氏居らる。例の

籠を出して引き返す。時間の関係上、徒歩と決す。0時半帰着。ミワさん既に販り、白米、甘藷、人参、ぼた餅（黄粉あべかわ）等、貰ひ来らる。訪問を知り準備し居りたる由。往復バス15と云ふ。余は座せば足が痛む程歩き疲る。甘藷洗ひ、蒸して貰ふ。夜は三時母堂と一緒に。而して、余はぼた餅七つを全部頂く。七時湯に行かる。此日、朝快晴、十時頃より曇り。少雨。手当昨日到着。経費は本日到着。何れにか誤達、開封の形迹あり。蒲鉾発送準備す。夕食後着手。上田谷地三谷、東京峯、及び神戸へ大4、4、7。塩川へは小4、神戸へ6の割合。午後十一時寢床。

昭和15年12月26日（木）

曇天の儘、終始す。夕方一時陽光を見たるも、束の間に雲に鎖さる。窓口切手類買受け額、異常の多額を算す。売捌き所請求も亦多し。給料交付額に、余の慰労金も合算あり。新年名刺交換会二十四日限り。本日書類発見、市役所の承認を得て申し込む。巖来たり、見舞いの返礼として饅頭大持参。風呂敷及び饅頭11、森田西牟田氏にも持来る。長峯局長来、身体検査表を呉れと云ふ。予備なく筆書して遣わす。此の時真坂局長来たり。先日貯債及び国債廻送申込みに対し送付す。其の代金を持来らる。窓口より受取金額百七十円余、近来珍しき売り高なり。午後九時より早く寝る。但し真に寝たるは、矢張り十時を過ぐ。電気炬燵す。割合気温上昇。蒲団二枚かけたり。

昭和15年12月27日（金）

初めの間は晴れ次第に曇り。後、霽れたり曇ったり。切手請求の際は小雨降る。午前十一時半、更に切手類の

受取りに出掛く。依然降ったり歇んだり。十一時半までに切手類を出して呉れると云ふから、午前十一時三十二分頃出掛く。然るに係の者は居らず。中野氏亦急しく働き居りつつ、余の為に話し相手になって呉れ一時間余を空費す。国債二十円也を、金光様より御金を出して手に入れ、夫れを擔保として逋信局よりの到着を俟つこととし、午後七時頃ミワさんと出発。先生恰度夕飯時とて、礼金を差措き匆惶引上ぐ。但し電話の間違いより、御婆さん死去せりとのことに就いて御聞きす。販りに蒲鉾屋に立ち寄り、50銭七本注文す。歸りて仕事を続けるも睡魔に襲われ、十時近く引取る。ミワさんも十時二十分頃、居眠りの俣、寢床。

昭和15年12月28日（土）

曇り、偶に陽の射すことありしも、概して密雲に鎖さる。昨貢氏より手紙。道子腹大きく、近来の夜行列車は混雑の為、立ち往生の憂き目を見るかも知、母体に影響ありては困ると云ふのと、家を留守にして空き巣狙いに盗られては馬鹿を見ると云ふのと、種々の事由より旅行中止となれりとあり。今朝切手請求より販れば、売捌き所よりの請求甚だ多し。四銭切手など猶少なし。爰に於いて更に請求の必要を感じ居る際、鶴居局長臨局。木炭配給の件、電話378番木炭林産検査所に打合せを了せり。猶、日所と交渉せよとのこと。正午を過ぐ。第二次切手配給の件、電話打ち合わせする積もりなりしも、満州電々会社内田員と云ふ人、多数電報を受取証附きにて請求（恰度19通あり）し電話明かず。竹屋に行き庶務及び為替と連絡、午後0時20分頃、請求に赴く。同時に曩に請求分受取り来る。四銭百枚多し。電話注意せり。二時請求分

にて差引きして貰ふ。三時再び先刻請求分を受取り来る。午後二時、蒲鉾受取り来たり。貢氏に発送せり。因みに昨日長峯局長来たり。真坂局長来局。前者は相談所に医師の身体検査（事務員）を、印刷用紙を貰ひに来られしなり。恰度、真坂局長と鉢合わせとなる。身体検査証は便宜筆書し遣る。今日右に対し礼状遣わす。午後九時四十分、林檎頂きて後寝る。咳出る、夥し。

昭和15年12月29日（日）

午後三時まで為替取扱ふ。日曜と云ふのか、一向閑散。三時より森田さん等、事務室大掃除。此の間、甘藷洗ひ火を起こし遣る。五時までには夕食を済ますことを得たり。便覧及び為替の訂正書到着。昨日より着手、漸く上巻のみ終了。糯米一升配給され、砂糖一月分迄、配給さるる由。近所の隣組にては、各自配給米を持寄り、一力所にて搗く仕組みもあり。日の出町如きは、皆予め準備置きたるか、自家の有米にて搗くらし。曩に注文すれば65銭にて、任意に頒配し呉れたるもの。其の代わり、配給米は51より台湾糯らし。今朝主務者不明にて、ミワさん行先を尋ね、引返して探したるも不明。野口さん堪えられぬか迎ひに行く。漸く来たり、判明せり。窓口一杯の人群がり、資金五百請求、再び千円請求せり。切手請求なき代わり、資金請求となれり。どうやら気持悪しく、割合早く寝る。

昭和15年12月30日（月）

晴れたり曇ったり。脈搏早く体温37, 4、聊か具合悪し。森田さんは弟さん来る筈の処、遂に不来。元旦登校の為とあり。森田さん加減悪く、午後より臥床。午後四時頃よ

り再び出動。此の間、余出来得る限り援助す。ミワさん餅屋に注文に行きしも、米なきときは搗けぬと、糯米の提供を慫慂する有様なり。新態勢に順応し、餅なしとし、其の代わり神様には一ヶ五銭の饅頭を重ぬることとせり。酒も二十九日中、既に売竭くし一合も売らぬらし。此の夜、熱発37, 4。八時過ぎ寢床。ミワさん事務室に寝巻を持ち込む。

昭和15年12月31日（火）

肉屋珍しく早朝、電燈煌々と開店。余は平常通り、七時過ぎ掃除に行くも耻（は）ずかしい位なり。非常に懸念されし恙（つつが）も格別のことなく、朝食は相当頂きたり。中津発行、電信為替の発行日附印洩れを持参、代用日附印押捺し貰ふ。晴天、日向は暖かし。風も鎮まる。伊勢さん夕飯を野口さん等に招待、運蕎麦の馳走に預かる。甚十郎氏より電報、今夜終列到着予定。ミワさん午後六時二十二分列車にて（金光駅往復十円十銭）出発さる。夜頗る温暖。火気を要せぬ位、珍しき現象。野口さん等、八時より用達に出掛けらる。近頃アルマイト製の釜八円余を初め、蒸し器に至るまで立派な器物を求めらる。今日大工来たり、火鉢台180調製越せり。障子のサンも作り呉る。此の夜、森田さんも十一時過ぎまで起きて居り、物数報告の作成に力む。余十一時半、駅に行く。悉く出竭（つ）くして其の人を不見。乃ち販る。少時して甚十郎氏来らる。人混みにて容易に下車出来ず。発車信号を聞きつつ、漸く活路を開きたる由。野口さん等、猶執務。尤も中途用達に行き、風呂に行き、十時を過ぎて再び仕事に着手さる。余十時頃、床展べ置けり。